

## ～ 第6次留萌市総合計画意見交換会 ～

### 【開催概要】

- 平成28年7月19日（火） 13:30～15:15
- 商工会議所 1階 会議室

### 【出席者】

#### 会議所

常議員：塚本、二ノ宮、丹野、中野、澤井、中川、鈴木

監事：森

議員：成保(代理)、井上、古野、貝森、西野、藤野、(串橋)

事務局：川村、村山

計17名

座長：伊端委員

委員：串橋委員

市：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【報道】 1社(留萌新聞)

\*\*\*\*\*

### 【資料】

第6次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント

### 【内容】

- ① 座長挨拶
- ② 市民会議案説明
- ③ 意見交換

#### 〔基本テーマ〕

- 基本テーマにひらがなが多すぎる。ひらがなにすることで全てが許されるような現代日本の悪い風潮だと思っている。  
留萌再生でいいのではないか。地方再生と今言われている中で、再生の中には、全てが込められていることだと思う。

#### 〔重点化・実効性〕

- 市民会議が作っても、行政がそれをどのように扱っているかが問題。
- 意見を交換する場ができたのであれば、具体的な進め方なども決めていった方が現実性があると思う。
- どれか一つにターゲットを絞る
- 3階層の計画を作るのも分かるが、基本計画にまで踏み込むぐらい、現実味のあるものに。
- 団塊の世代が65歳を過ぎた。一番人口の多い世代が70歳を迎え、今後加速度的に人口減少が進む。施策にはスピードが必要になってくる。
- 実現性を担保するということなので、施策単位で提言できないのか。市民会議でこんな意見が出ましたではなく、基本計画の中にこういうものを作るというものを、また、基本計画にこういうものを盛り込んでほしいということまで提言。
- 人口が減っていく中で平穏に見える。危機的な状況だということを経験しているのであれば、改革のチャンスだと思わなければいけない。
- 全部の目標を掲げるのもいいが、重点化すべきものを絞っていかなければ、達成は難しいと思う。
- 教育において、英語だけに取り組む。幼児から徹底的にやり、道内一の英語が喋れるまちなど、予算規模、人口規模の中で強いものをつくるという精神が必要ではないか。
- どの世代をターゲットにするかということ。これからの生産年齢人口をどのように増やすまちづくり。
- 青写真があることで、それに向って経済活動が動き出す。早い時期に青写真を固めてほしい。
- 10年計画で考える時代なのか少し疑問に残る。

#### 〔検証・市民参加〕

- 市ではSWOT分析をやっているのか。弱い者は強く、強いものはより強くする必要がある。
- 施設やイベント、子どものスポーツ教育環境が減っていると思う。子どもの伸びる要素を奪ってしまっているように思う。
- 過去をやり直すことはできないが、過去を検証することはできる。市立病院と温水プール、これだけの施設が必要なのか検証することをしっかりやっていたら、5~60%の規模で、管理費も抑えて継続可能な施設になっていたはず。
- KPI、目標数値。活性化させるにもどこまでという数値が無ければ分からない。基本構想に入れ込むのは難しいかもしれないが、ニュアンスが感じられるようなものが作られれば実行力ある基盤ができると思う。
- 市民会議の主な意見がかかっているが、そこをもっと出していくべき。
- 具体的施策提案の場、皆でやっていけることを議論する場が必要
- 市民が参加する仕組み、まちづくりと一緒に進めるという仕組みを作してほしい。
- 市民がもっと関心を寄せて反対議論があってもやってきたもの。計画を立て、実行するとき、身の丈に合ったこれから未来に継続可能な施設、継続可能な場所に建てるという議論が一番大事なところ。
- 子どもたちに教育としてこういうマチでこうなっていくということを理解させる、理解しようと努力をさせることが大事だ。
- 留萌の状況は末期的という認識でいる。このマチの特異性として「人任せ」が多い。

#### 〔人口減〕

- 人口減少によってできなくなったことがあると思う。減少した要因を取り除いていかなければ、減り続ける。
- 人口減に伴う税収減は避けて通れない。人口減少対策はどうなっているのか。
- 税金は人口減少に比例して減っていくということをしっかり議論していかなければいけない。
- コンパクトなまちづくり。ここには住めない地域だということを言わなければいけない。あなたはここに集合・住みなさいと、良い人をやめてきれいごとではなく、こうしなさいという具体的な方策を、どっかを切り捨てることと同じことをやらなくてはならない。ここに集約するということは、どこかを疲弊させること。それを言える人がいるかどうか。

#### 〔施策〕

- 留萌市は所得ベースでは官庁のまちであり、どちらかというアウトバンド産業である。ローカル産業が無いと、同規模自治体と違って循環しないマチという特徴がある。
- 誰も札幌市になろうと思っていない。小さくても強靱になればいい。全ての業種が強くなるというのはあり得ない。
- 「地域間競争力」特に観光はどこもかしこも観光と言っている中で、競争力を高める方法を考えてほしい。
- 観光客を呼びつけるような海以外のものをつくれないうか。観光に力を入れてくれれば人も集まり、賑わいが戻る。増毛みたいなまちづくりをやってほしい。
- 優先順位。市民会議案で入れてほしいのは、一番は経済、雇用です。一番の柱だと思う。取り組まなければ人口は増えない。働く場がなければ人は増えない。
- 道路ひとつをきれいにすることだけでも観光客は来ると思う。
- 子どもたちが通年で使えるプールにしてほしい。
- 水産加工業を中心とした商業のまちづくりを提案したい。若手が起業しやすい環境、失敗しても守っていく制度、税金を軽減する制度を作ることができないだろうか。
- リタイヤ後に、どこに居住地を置くのか。過ごしやすさ、暮しやすさ、魅力のあるまちでなければ、残らないし人が集まってこない。
- まちの人全体がセールスマンに。